

2021年度 年次報告書



Chance For All



Highlight of 2021 2021年のハイライト

学童保育が団体の事業の中心だった2020年度から大きな変化に踏み出した1年。
新しい事業が生まれ、関わる人が大きく増え、変化の1年となりました。

2021年度活動のお礼とごあいさつ

引き続きコロナの影響を大きく受けた2021年度、CFAは設立から8年目にして大きな変化を遂げました。これまで、職員だけでより質の高い学童保育を運営するということだけに注力してきたCFAですが、学童保育に通えない子、卒業した子などChance For Allという名のとおり、すべての子どもたちにとっての豊かな放課後を目指して複数の新規事業をスタートしました。

まず、学生ボランティアによって運営される駄菓子屋 irodori です。現学生代表の飯村くんがたった一人で始めた事業ですが、今では学生チームも130名を超える規模となり、駄菓子屋の運営にとどまらず地域の方々や団体と協力しながら子どもたちの居場所づくりを進めてくれています。

次に、千葉大学や地域で活動する仲間と一緒に実施しているあそび大学です。墨田区の町工場から出た廃材で墨田区の子どもたちが無料で自由に遊べる場づくりを行っています。10年、20年と続けていって、都会で育つ子どもたちにとってのふるさとのような取り組みにしたいと考えています。

また、社会で活躍しているプロボノの方々にCFA全体の進むべき方向性について一緒に考えていただいたり、職員とボランティアの合同合宿では学生たちのキャリアの相談に乗っていただくなど多くの助けをいただきました。

どれも自分たちだけでは到底為し得なかった取り組みです。自分自身、人に頼るのが苦手なところがありますが、子どもたちにとってよりよい社会にしていきたいためにこれからも多くの方と手を取り合って活動していきたいです。

特定非営利活動法人Chance For All
代表理事 中山勇魚



新事業 1

子どもたちが自分の意志で来ることのできる居場所 駄菓子屋 irodori 事業

活動を続けていく中で感じていた「学童保育だけではカバーできない子どもたちがいる」という課題意識から、「地域の中に子どもたちが自由に行き来できる居場所を作りたい」と思い、2021年7月に駄菓子屋 irodori をオープンしました。企画や運営を担っているのはCFA学生チーム。大人ではない、少し年上のお兄さんお姉さんである学生がいることで、子どもたちにとってちょっとした悩みを打ち明けられる居場所になっています。



のべ利用者数
10,133人

ボランティアスタッフ数
52人 ※2022年3月末時点

新事業 2

すみだの素材で自由にあそぼう あそび大学事業

墨田区の町工場から提供された廃材で、子どもたちが自由に遊ぶことのできる遊び場。居場所がなくなり、公園に行ってもボール遊びは禁じられているなど、制約の多い現代の子どもたちが、自分たちがやりたいように自由にいられる場所です。2021年12月に第1回を開催し、2021年度は合計3回4日間、のべ225人の子どもが参加しました。



のべ利用者数
225人

共催：
千葉大学環境デザイン研究室、
Seki Design Lab. 一般社団法人SSK



学童保育事業も進化。 子どもたちと地域社会をつなぐことに挑戦しています。

8年目となったCFAKids。「すべての子どものための学童」という信念は変わらず、活動を地域に広げていくことに挑戦しています。これからも地域で子どもたちを見守る目を増やし、子どもたちと地域社会をつないでいきたいと考えています。





駄菓子屋×こどもの居場所として、2021年7月にオープンした駄菓子屋 irodori は、大学生が運営する駄菓子屋さんです。
従来の駄菓子屋さんが持つ、親しみやすいレトロな特徴に加え、買った駄菓子をそのまま食べることができる飲食スペースや、子どもたちが集まって宿題を取り組んだり、団楽を楽しむことができる様なフリースペースを兼ね揃えたみんなの居場所です。

のべ利用者数
10,133人
52人のスタッフで
活動しています！



※2022年3月末現在

基本情報

住 所：東京都足立区関原3-15-3
営業時間：月・火・木・金 ▶ 15:00 - 19:00
水 ▶ 14:00 - 19:00
土・日・祝 ▶ 13:00 - 19:00
※社会状況等により変更する場合がございます。
最新の営業時間はホームページをご確認ください。

支援者の皆さんと
1から手作りした
黒板もあります！



奥のフリースペースは、
子どもたちが自由に
遊べる場所になっています！
ジェンガやマンカラが
人気です！



VOICE

駄菓子屋 irodori は「子どもたちが自分の意思で来られる第三の居場所としての駄菓子屋」というコンセプトでオープンしました。学童に通うことのできない子やCFAを知らない方のお子さんにアプローチできないことを課題と感じていました。そんな中で、どのような境遇の子も親の意向や環境に関係なく、自分の意思で来ることができる場所を作りたいという思いから、また、子どもたちが支援されているということを感じることなくふらっと来ることのできる駄菓子屋を立ち上げました。毎月1500人近くの子どもたちが利用してくれましたが、多くの方のご支援があって運営ができることを感じた一年でした。これからも子どもたちや地域の方にとってどのような居場所であるべきかを考え続け、学生チーム一同全力で活動していきたいと思えます。

駄菓子屋 irodori 学生チーム
代表 飯村 俊祐



スタッフの声 ①

学年や学校が異なる子どもたちが一緒に交わる姿や、最初は駄菓子の購入のためだけに足を運んでいた子どもが、だんだんと学生スタッフに心を開いてくれる過程が見られ、irodori が子どもたちにとって自分らしく安心して過ごせる居場所になれているのではないかと日々感じています。子どもたちにとって、こういう大学生・高校生もいるのかと、少し先の未来を想像できる居場所としてこれからもあり続けられるようがんばっていきます。

スタッフの声 ②

私は、3・4月に行われたギフトカードクラウドファンディングのプロジェクトに参加し、「想いを届けられることの嬉しさ」を感じました。いろんな方に知ってほしいと思い、地域のお店のたくさんの方とお話をさせていただき中で、徐々に自分の考えを言語化し、長期的な視点でこれからの irodori を考えられるようになりました。コロナ禍の影響で大学生活もほとんどオンラインだったため、「応援しているよ！」と直接励みになるコメントをいただけたことも本当に嬉しかったです。応援してくださる皆様の気持ちを胸に、これからも活動がんばります。

たくさんの方のご支援をいただき
本日まで運営することができております！



これまで、たくさんの
物品寄付をいただきました！

- ・自動体外式除細動器 (AED)
- ・ビニールカーテン
- ・漫画や本
- ・カードゲームやパズルゲーム
- ・黒板のチョーク
- ・クリスマスのツリーやイルミネーション など



地域の方や他の団体さんとも
連携を進めています！

～ハロウィンウォークラリー～

2021年10月には関三通り商店街全体を巻き込み、子どもたちが商店街を練り歩いてお菓子をもらっハロウィンウォークラリーを開催しました。参加した子どもたちは「Trick or Treat !!」と商店の方へ元気よく声をかけながら沢山の種類のお菓子をもらい、とても楽しそうでした。地域全体で子どもたちを育んでいく第一歩を踏み出しました。



～出張駄菓子販売～

2021年9月に足立区のつくし幼稚園へ、2022年2月に足立区の六町つながるフェスタへ出張販売を行いました。関原地区にある駄菓子屋 irodori という店舗の形を超えて多くの子どもたちと繋がりを深められ、新たな出会いの場となりました。



～堀田湯コラボイベント～

irodori から歩いて2分ほどの距離にある銭湯・堀田湯。商店街を子どもたちが安心して利用できるように、irodori と堀田湯を子どもたちが楽しく行き来できるようなイベントを毎月開催。

2021年
5・6月

駄菓子屋 irodori オープンに向けて
クラウドファンディングを実施

オープンに際し、クラウドファンディングを実施し、365名の方から422万円のご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

2022年
3・4月

子どもたちに知るきっかけを届けたい！
ギフトカードクラフアンの実施

オープンしてから約7ヶ月、日々運営をしながら感じたことは、特に未就学児や小学校低学年の子は、irodori を訪れるきっかけの多くが保護者に依存しているということです。

しかし、保護者が irodori を知るきっかけが少ない子どもたちや、そもそも保護者の方と一緒に暮らすことができない子どもたちもたくさんいます。そんな子どもたちに、ギフトカードを配ることで irodori という場所を知り、行ってみようと思えるような「きっかけ」を届けたいと考え、ギフトカードクラウドファンディングを実施致しました。おかげさまで、104名の方から43万7千円のご支援をいただきました。実際に地元の児童養護施設「クリスマス・ヴィレッジ」の子どもたちや宅食支援を受けている子どもたちにギフトカードを直接届けることができます。また、ご支援いただいたお金は地域の外国ルーツの子どもたちが irodori を知るきっかけになるような施策や「未就学児や小学生の利用が多い irodori には中学生が来づらくなっているのでは？」という現状の課題を解決するための施策にも充てる予定です。



駄菓子屋 irodori のこれからの展望

これまで常設の駄菓子屋として開け続けることで、地域の多くの子どもたちと継続的なコミュニケーションを取りながら、子どもたちを見守る体制を一步ずつ作り上げてきました。一方で、多くの学生は高校や大学を卒業後、この活動から離れてしまいます。残されるのは子どもたちです。これから地域社会の中で育てていく子どもたちが安心して幸せな毎日過ごすためには、学生という流動性が高い組織を次の世代に引き継ぎ、駄菓子屋 irodori を事業として継続・拡大させていく必要があります。そのためには、同じビジョンを共有しながら進む仲間、そしてこの活動に共感してくださる応援者をさらに集めることが必要です。これからは事業として持続的に継続・拡大していくことに主眼をおき、地域の子どもたちが安心して幸せで自分らしい毎日過ごせるような居場所を新しいメンバーや支えてくださるみなさん、そして子どもたちとともに作り上げていきます。



あそび大学



こどもたちの成長に欠かせない「あそび」。
文科省をはじめとした国の教育機関ですら、こどもたちの成長には「あそび」が必要不可欠であると結論づけています。諸外国では学校の授業の中に自由な「あそび」の時間を設けているほどです。
一方で、こどもたちの「あそび」に必要な不可欠な「空間、時間、仲間」の「三間」は失われ続けており、千葉大学の研究によれば平日の放課後に1日も外遊びができないと回答した小学生は、実に8割に上ります。
この危機的状況をなんとかしようと、多種多様なメンバーが集って生まれたのが「あそび大学」です。墨田区の町工場から出る廃材を譲り受け、千葉大学墨田キャンパスでこどもたちが自由に遊べる環境を実現しました。地域の大人みんなでこどもたちのあそびを見守っていきける。そんな社会になればうれしいと考えています。

共催する他団体のメンバーより

VOICE

千葉大学
デザイン・リサーチ・
インスティテュート
教授
原 寛道先生



私たちは、日々楽しく、幸せに暮らしたいと思っています。楽しみ方は人それぞれにあり、社会は豊かになります。一方で、人それぞれの違いが、ぶつかり合いにもなり、争いが生じ、格差が生まれ、人として幸せに暮らすことができない状況にもなります。誰かがその状況を根本的に変革しても、また、新しい困難が生まれます。であれば、どんな状況でも楽しめるという能力は、最高の力だといえるかもしれません。こどもは遊びの天才だと言われますが、それは大人が見失った楽しむ力を十分に持っているからだといえます。
千葉大学の墨田サテライトキャンパスでは、墨田区の下町の中心に位置しています。このキャンパスで本当に豊かなこどもの遊びの実験「あそび大学」を実践し、地域に遊びの波動を広げます。そして、墨田区が遊び豊かで、誰もが楽しいと思える街にしていきたいと思っています。

VOICE

Seki Design Lab.
関 真由美さん



あそび大学には、モノづくりの町『すみだ』の町工場から提供していただいた素材がたくさんあります。革や布、木の端材、残糸、型で抜かれたウレタンや紙など。それらを目にしたこどもたちは、色、形、質感が異なる多種多様な素材に触れながら、次々に遊びを生み出していきます。時には失敗したり、思っていたようにいかなくて泣いてしまうこともあります。でも、それもまた決まった何かを作るだけではできない、素晴らしい試行錯誤の経験ではないでしょうか？
あそび大学では、そのような、こどもが自ら夢中になるモノを発見する『あそび場』を目指しています。

VOICE

一般社団法人SSK
須藤 昌俊さん



子どもが本当の意味で遊べる場が少なくなってきました。本来遊びとは、「いつ始めても、いつ終わりにしても良いもの」であり、「子どもたち同士で決めた約束事を守って行うもの」、「勉強などは違って目的のない非生産的なもの」であるはずですが。
しかし近年では、社会が過剰に子どもを心配するあまり、遊びに大人が意味づけをして誘導してしまったり、大人の都合で制限を加えてしまったりと、大人の目がないところで、子どもが自由に遊べる場が少なくなっています。そこで、私たちは、遊びをもう一度子どもの手に取り戻すための取り組みとして、「あそび大学」を行っています。あそび大学をモデルケースに、子どもが自由に遊べる場を墨田区中に広げていき、遊びを再び子どもの手に取り戻すことを、目指しています。

第1回

12/26(日)

参加数：27名

記念すべき第1回は、町工場から提供いただいた素材がどのようなものなのか、素材を体験するワークショップからスタート。ウレタンやメリヤス、木材の素材がどんな特徴なのかを体験します。
自由に素材にふれる時間では、こどもたちは小さな家を作るなど、大人が理解しやすい遊びをする子もいれば、きれいな色の絵の具を混ぜ合わせる子、お気に入りのボタンを集める子や、乳酸菌飲料のボトルに木材を貫通させることに熱中する子がいたり、思い思いの時間を過ごしました。



第2回

2/6(日)

参加数：27名

前回の素材に加え、大型の木材やウレタンを配置。ウレタンの山に飛び乗るなど体を大きく使う大胆な遊びが増え、大きな作品をつくる子の姿が見られました。木材を使って自分たちが実際に入れるサイズの戦車をつくろうとするこどもも。時間内に完成に至らず、次回へ持ち越すことになりました。
第1回の振り返りで、保護者の「もっとこうしたら?」「そんな遊びはほしくないほしい」というまなざしが、こどものあそびを制限しているのではないかと課題がありました。そこで、第2回はあそびに対する保護者の理解を深めるために、あそびに関するレポートの展示や原先生と中山のトークセッションを実施。熱心に見たり聞いたりする保護者の姿が見られました。



第3回

3/19(土)、
20(日)

参加数：
19日
午前26名/午後45名、
20日
午前51名/午後49名

第3回は、午前と午後に分けた2日間で全4回の募集。当日は入場待ちができるほどの大盛況となりました！第1回、2回と比べると、高学年のこどもの来場も多く見られました。ふだん習い事が忙しくて遊ぶ時間がなく、当日は習い事を休んで来たという5年生は、2時間わきめもふらずものづくりに集中し、笑顔になって帰っていききました。第2回で完成しなかった戦車も無事に完成。ほかにも大判の布を使って衣装づくりを楽しむ子などの姿が見られました。



▶▶ あそび大学これからの展望

2021年度は3回の実施となりましたが、定期的かつ継続的に実施することで、参加者数が増え、また、こどもの遊びの幅が広がったことを実感できました。2022年度も毎月実施していきたいと考えています。
また、夏休みには一週間連続で、あそび大学を開催する予定です。「夏のあそび大学」では、墨田区の小学生の中から企画メンバーを募り、こどもたち中心であそび場づくりをしていけたらなと構想しています。

CFA Kids 学童保育事業



8年目となったCFAKids。「すべてのこどものための学童」という信念は変わらず、活動を地域に広げていくことに挑戦しました。これからも、地域で子どもたちを見守る目を増やし、子どもたちと地域社会をつないでいきたいと考えています。

▶ 学童の外へ。地域とのつながりがどんどん生まれています！



六町校
2021年11月に六町駅前にできた「六町駅前安全安心ステーション」、通称ろくまるの勤務員のみなさんと交流が深まっています。あいさつし合うことから始まって、子どもたちの下校や公園の行き来、CFAKidsからの帰りの際に見守っていただいています。勤労感謝の日に、子どもたちのお手紙を届けたことがきっかけで仲良くなり、年始には年賀のメッセージカードを届けました。ろくまるの勤務員さんたちからよろこびの声をいただきました！



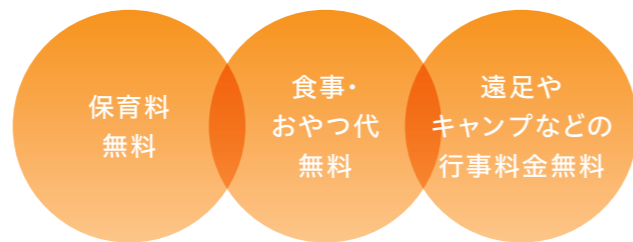
西新井校
2020年度に実施した「しゃかチャレ〜社会課題にチャレンジ〜」で、地球温暖化を防ぐために何ができるかを考えた西新井校の子どもたち。子ども用のサイズのエコバッグがないことに気づき、「子ども用のエコバッグを作成して小学校で配布する」ことを目指して足立区の助成金に申請しました。見事採択され、助成金を使って子どもたち自身がデザインを考え、エコバッグを作成。当初は小学校で配布することを考えていましたが、よりたくさんの人へアプローチしたいと考え、駄菓子屋irodoriにて配布することに。850枚のエコバッグを配布、実際子どもたちもエコバッグを活用してくれています。



CFA 奨学制度

すべての子どもたちのための放課後の居場所を！

CFA 奨学制度とは、「家庭の経済状況に関わらず、子どもたちがみな豊かな放課後の時間の中で成長できるように」という想いで、困難家庭を対象に保育料や食事代金、行事料金等無料でCFAKidsに通うことのできる制度です。文字通り「すべての子どもたち」が空間をともにし、遊びをともにし、食事をともにし、交わりあいながら生きていく。互いに異なる環境に生まれながらも、お互いのちがいを認識し、理解し、受け入れられながら生きていくことをめざし、2019年度より制度を開始し、2021年度は約10家庭を奨学制度で受け入れました。



3年生以上のCFAKidsの卒業を祝い、「すだちの会」を開催

2022年度から4年生以上でCFAKidsに入室する場合は、より自立した放課後の過ごすことのできるようになるCFAAdvanceという制度が立ち上がることに伴い、CFAKidsに在籍する3年生以上を対象に「すだちの会」を実施しました。

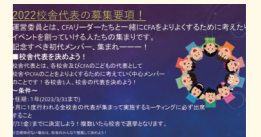
メッセージをお互いに送り合ったり、これまでを振り返る動画を見たり、代表の子の発表や職員からの言葉を聞いたり、みなでCFAKidsでの毎日を振り返りました。「CFAで過ごしたことなんて忘れてしまうくらい楽しい未来を」というのは代表の中山がすだちの会で伝えたい言葉ですが、子どもたちのこれからの明るい未来を切に願う一方、何かどうしようもなく困ったことがあったら、いつでもCFAを頼ってほしいと思っています。卒業する子どもたちの明るい未来をみなで祈っています！



2022年度からCFAAdvanceがスタート！

自立に向かう4年生以上の上級生のための取り組みです。

Advance生になると、「友達と遊んでからCFAKidsへ戻ってくる」など、放課後の過ごし方について自分で決められる選択肢が増えるほか、校舎を代表する運営委員や全校舎行事であるキャンプを運営するキャンプ委員など、他の校舎の委員とともにCFAKids全体の運営について考える役割を担います。「自分で決める」「自分」だけでなく、「自分たち」のことを考えられるようになってほしいと思っています。



職員・ボランティアの声

職員の声

子どもたち一人ひとりには、それぞれ自分なりの輝きがあって、壁があって、成長があります。だから子どもたちの日常、年月を重ねた成長は感動の物語ばかりです。

また団体目線では、子どもたちのためなら全く新しいプロジェクトにもチャレンジしてしまうこともCFAの魅力の一つです。そんなCFAだからこそ働いていておもしろく、一緒に歩んでいきたいと思うのです。

(2021年度押上校舎運営責任者 大窪)

ボランティアの声

ボランティア活動を通して子ども達の成長を感じることがよくあります。以前上級生によく注意されていた下級生の子が1年経ったらいつの間にか下級生を引っ張っていく立場になっていたところを見たときはとても驚きました。いろんな立場の人と関わり合う経験することは、今後の人生に大きな影響を与えていると思います。その一環として私たち、学生ボランティアが少しでも子ども達の成長に貢献できたならばとても嬉しいです。

(学生ボランティア 田邊)

Voice of Supporters

ご支援いただいたみなさまの声

今年度も多くのかたからいただいたさまざまなご支援によって、日々の活動を続け、前に進めることができました。

SONY ソニーグループ株式会社様

ソニーグループ株式会社様がこどもの教育格差縮小に向けた取り組みとして展開している「感動体験プログラム」の一環として、クラシック音楽ワークショップや恐竜オンラインツアーをCFAKidsの各校舎で実施いただきました。また、ロボット・プログラミング学習キットKOOV®(クーブ)、IoTブロックMESH™(メッシュ)のコンテストに参加させていただくなど、こどもたちの好奇心や創造性を育む機会を数多くご提供いただきました。

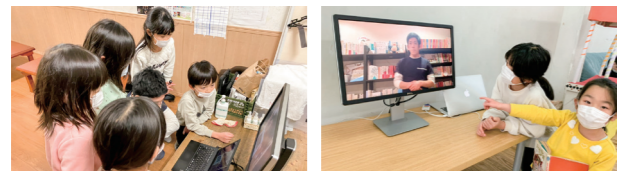


ソニーグループ株式会社
サステナビリティ推進部 CSR グループ
ソーシャルイノベーションチーム
シニアマネジャー
森 悠介様

Chance For All様が大切にされている生まれ育った家庭や環境で左右されない社会を目指すという方針に基づく学童運営や困窮世帯を対象とした奨学金制度などの取り組みに深く共感し、2020年より連携させていただいております。ソニーグループのプログラミング教材をご活用いただき、CFA様の先生方によるこどもたちへのワークショップの提供やコンテストに向けての作品作りなど、こどもたちの創造性や好奇心を育む体験機会の提供をご一緒させていただいております。これからも、CFA様とのパートナーシップのもと、次世代を担うこどもたちに感動体験を提供して参ります。

SEGASammy セガサミーホールディングス株式会社様

CFAKidsへグループ内にて使用頻度が低くなったPCモニターを18台ご提供いただきました。各校舎をつないでのイベントやMTGの際などに活用させていただいております。



セガサミーホールディングス株式会社
執行役員
サステナビリティ推進室 室長
一木 裕佳様

Chance For All様が掲げられている『生まれ育った家庭や環境でその後の人生が左右されない社会の実現』や、直面する社会課題に対する取り組みに共感し、微力ながら協力をさせていただいております。今回は、グループ内にて使用していたPCモニターを9か所全ての施設にグループ社員が直接訪問してお届けさせていただきました。セガサミーグループはこれからも、こどもたちの未来が『元気に、カラフルに』なるような支援を続けてまいります。

FITS 株式会社 フィッツコーポレーション様

8月24日(火)、CFAKids9校舎とオンラインでつなぎ、総勢約200名のこどもと「香り×自由研究～ハンドソープをつくろう!～」を実施いただきました。香りにまつわるクイズから始まり、その後ひとりずつハンドソープづくりを体験しました。コロナ禍で夏休みの思い出が作りにくかったこどもたちにとって、よい香りとともに貴重な経験となりました。



株式会社フィッツコーポレーション
SCMチーム兼CSRリーダー
鈴木 一徳様

フィッツコーポレーションでは「香り×自由研究」という活動を通して香りについての学習とモノづくりについて楽しく学ぶ機会をこどもたちへお届けしております。CFA様とは2021年夏休みに初めて9施設同時にオンラインでの「香り×自由研究ハンドソープづくり体験」を実施させていただきました。コロナ禍であれオンラインを活用することで200名を超えるこどもたちと触れ合うことができた素晴らしい体験に私たちも感動いたしました。これからも次世代を担うこどもたちと共に香りの無限の可能性について一緒に考えていければと思います。

マンスリーサポーターのみなさま

五井 利明さん

子どもたちとともに、組織も、運営する人たち自身も、葛藤しながら変化・成長を続けるCFA。会員を続けているのは、この人たちのやっていること(doing)だけではなくあり方(being)が好きだし尊敬しているからで、つまり僕にとっては「推し活」です。これからも心から応援しています!

渡慶次 康子さん

千葉県市川市で民間学童を運営しています。私たちの学童にとって目標となるCFAは、地域の学童に留まることなく、「あそびこそ最高のまなび」という理念を広めるべく全国に動きかけていることに賛同し、応援しています。この思いが全国に広がることで、きっとこどもが生きやすい世の中になっていくことと思います。

プロボノのみなさま

? 「プロボノ」とは

「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉で、【社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動】の意。(サービスグラントHPより) 2021年度は9名のかたにプロボノとしてCFAに関わっていただきました。

▶ 中長期プランの策定・プレゼン資料作成

特定非営利活動法人二枚目の名刺様の「サポートプロジェクト」に共感いただいた、4名のかたにご参加いただきました。4名のかたと対話を重ねることが、CFAにとって新たな気づきと発見に繋がり、次のステージへの一歩になったプロジェクトとなりました。



▶ ウェブサイト改善提案

住友商事株式会社様の、教育をテーマに活動する非営利団体を支援する「住友商事教育支援プロボノ」にて、4名の社員のかたにご参加いただきました。CFAに関わる14名のかたへヒアリングを実施いただき、既存の寄付募集のしくみやウェブサイトの改善提案をいただきました。ウェブサイトは2022年度にリニューアル予定です。



住友商事



VOICE

活動の中で印象に残っていることは、「生まれ育った家庭や環境でその後の人生が左右されない社会の実現」のために、全力投球されているCFAの皆さんの熱量です。上記を実現するうえでの課題や、どうすれば達成できるのか?という議論テーマには、正解がありません。答えることが難しい内容ばかりですが、皆さんとの議論の時間は毎回あつという間でした。これからもその熱量を燃料にミッション達成に向かって躍進されていくことを楽しみにしています!(M.Tさん)

「『生まれ育った家庭や環境で、その後の人生が左右されない社会』の実現をめざす」その理念に共感し、CFAのHPの改修を、企業のプロボノ活動としてサポートさせていただきました。児童のご父母、職員の方々、他のNPOの皆様へのヒアリングを通じて分かったことは、CFAがこどもたちの幸せに真っすぐに向き合い、とことん実践しているということ。プロジェクトは終了しても、これからもCFAとみなさんをいろいろな形で応援し続けます!(岡崎裕介さん)

2021 in numbers 数字で振り返る2021年度

関わったこどもの数



のべ**8**万人以上

学童保育CFAKids、irodori、あそび大学、と事業が増えた分、関わることできたこどもたちが大きく増えました！

ボランティア数



1,837人

2021年度はほぼ職員のみだったところから、こどもの数同様、関わる人が大きく増えました！
ボランティアの中心は学生で、学生の勢い・パワーをたくさん感じた1年となりました。

イベント動員数



約**800**人

2021年度は外部のかたのゲストをお招きして、9回の勉強会を開催。
「放課後の重要性」「こどもの居場所」「地域でこどもを育てるとは」などをテーマに取り上げました。職員も多く参加し、参加者のかたとともに学びました。

取材・ヒアリング数



34回

駄菓子屋irodoriのオープンの際に数多く取材いただいたほか、CFAKidsと地域と関わりなどもメディアに取り上げていただきました。

Financial Results for the Fiscal 2021 2021年度決算報告

I 経常収益

科目	金額
1. 受取寄附金	
受取寄附金	10,997,447
2. 受取助成金等	
受取民間助成金	10,057,520
3. その他収益	
売上高	662,005
売上戻り高	-1,150
保育料収入	136,296,871
経常収益計	158,012,693

II 経常費用

(単位:円)

科目	金額
1. 事業費	
(1) 人件費	
給料手当	69,521,036
法定福利費	51,413,258
人件費計	120,934,294
(2) その他経費	
地代家賃	26,921,659
その他経費計	61,938,180
事業費計	182,872,474
経常費用計	182,872,474
当期経常増減額	-24,859,781
税引前当期正味財産増減額	-24,859,781
当期正味財産増減額	-26,102,228
前期繰越正味財産額	6,017,112
次期繰越正味財産額	-20,085,116

2021年度決算報告のtopics

ここ数年は黒字が続いていましたが、2021年度は大幅な赤字となりました。主な原因は以下の通りです。

- ▶ CFA創設からの5年間にわたる赤字期間中に、支払うことが難しかった社会保険料の団体負担などを分割納入していたが、今期で全額返済を行ったこと
- ▶ コロナ禍の影響による支出の増加
- ▶ 学童保育以外の事業をスタートしたことによる先行投資

2022年度はさらに原料高や円安によるコストの大幅増を見込んでいるため、全事業にわたって収益改善を行っていく予定です。

Initiatives for 2022 2022年度計画

職員だけではなく、学生といっしょに、理念の実現をめざしていきます。

▶ 学生による執行理事の就任と事業横断のチーム編成

2021年度は駄菓子屋 irodori で活躍してくれた学生が執行理事に就任。今後は irodori だけでなく、事業を横断して学生チーム全体をまとめ、学生の力を最大化してくれることを期待しています。

また、CFAkids ボランティア、駄菓子屋 irodori、2022年度に立ち上がる予定のローカルメディアと、チームごとに学生が所属していますが、採用、広報・ファンドレイジングなどの共通業務は、事業をまたぐことで、CFAグループ全体として、より団体として価値を発揮できるように、組織体制を再構築しています。

▶ 新事業：2022年度新たに「ローカルメディア事業」を立ち上げます。

「世帯年収が低く、コミュニティにも所属していない家庭は子育ての課題を解決するのが難しい」という仮説のもと、その課題を解決するために足立区のフリーペーパーを発行しようとしています。秋に初号の発行をめざし、現在推進しています。



『結-むすびめ-』は地域密着型メディアの子育てフリーペーパーを作成しています。

日々の多忙で特にひとり親家庭は地域での子育て情報を取得する機会を失ってしまい、子育ての悩みや不安を抱えています。ひとり親家庭を含め子育て世帯の方々に寄り添うことができるフリーペーパーを結-むすびめ-は目指していきます。(ローカルメディア学生チーム事業リーダー 桐生)



あなたに合った方法でぜひご参加ください。
「生まれ育った家庭や環境で、
その後の人生が左右されない社会の実現」をごいっしょに。

私たちCFAだけでは、めざす社会の実現はとてなしえません。
ぜひみなさんといっしょにめざす社会を作っていきたいと考えておりますので、
みなさんそれぞれに合った方法で私たちの活動にご参加いただけたら幸いです。

寄付で
支援する

継続して寄付する
(マンスリーサポーター)



今回のみ寄付する

お好きな金額で寄付いただけます。



物品寄付で
支援する

学童保育CFAkidsや駄菓子屋 irodori で活用することものおもちゃや本、消耗品など、希望する物品を掲載しております。



CFAの
活動を知る

私たちの活動を知っていただくことも力になります。
こどもたちの現状の課題にまつわる無料の勉強会も開催しております。
ぜひフォローをよろしくお願いいたします。

Facebook



Twitter

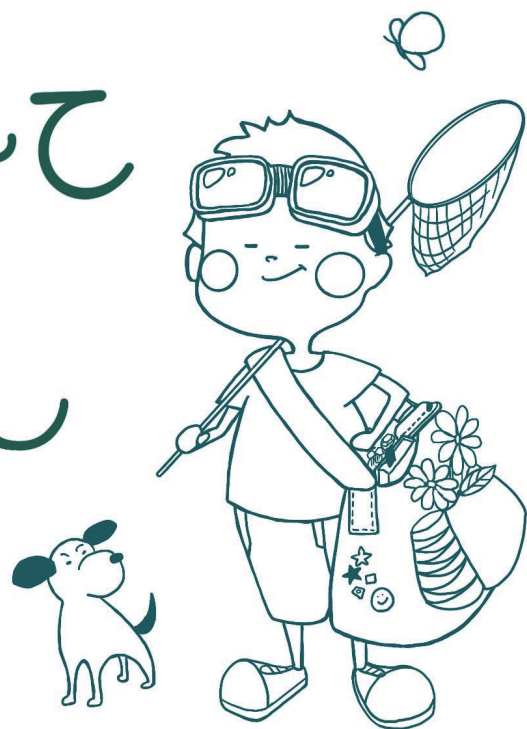


Instagram



イベント情報も
こちらから!

幸福なくして
教育なし



生まれ育った家庭や環境で、
その後の人生が左右されない社会の実現をめざして



特定非営利活動法人Chance For All

〒123-0852 東京都足立区関原3-15-4

E-mail: info@chance-for-all.org

Website: www.chance-for-all.org

この年次報告書のデザインは、インクデザイン合同会社様にご担当いただきました。
今年度もステキなデザインを、ありがとうございました。